

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 2	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 38	23	ヘルパンギーナ	↗ 7	5
咽頭結膜熱	↗ 35	33	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↘ 11	13
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↘ 61	67	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 1197	967	流行性角結膜炎 (はやり目)	→ 13	13
水痘	↗ 84	83	細菌性髄膜炎	↘ 0	1
手足口病	→ 33	33	無菌性髄膜炎	↗ 1	0
伝染性紅斑 (りんご病)	↘ 0	1	マイコプラズマ肺炎	↗ 6	5
突発性発しん	↗ 36	31	クラミジア肺炎	→ 0	0

**報告が多い感染症**

- 感染性胃腸炎
- 水痘
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 1197件(前週報告数 964件)と増加。地区別では、有明、山鹿、宇城に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の181件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- 水痘は、報告数 84件(前週報告数 83件)と前週とほぼ同数。地区別では、菊池、八代、有明に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の22件を最多に主に7歳以下からの報告です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数61件(前週報告数67件)と減少。地区別では、菊池、熊本、宇城に多く報告がみられます。年齢別では、4歳~6歳の10件を最多に10~14歳以下からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所		10	10	28	354	33	8		10		1	7		12		1	3	
山鹿保健所		1			82	2			1									
菊池保健所		3	6	21	96	16	5		6		1	1		1				
阿蘇保健所					19													1
御船保健所					23		3											
八代保健所		4	3	3	111	10	3		4									
水俣保健所					24				1			1						
人吉保健所			1	2	49	4			4		1							
有明保健所		1	1	1	274	12	6		4									1
宇城保健所	2	11	2	3	100	3	1		5			2						
天草保健所		8	12	3	65	4	7		1		4							1
計	2	38	35	61	1197	84	33	0	36	0	7	11	0	13	0	1	6	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	
インフルエンザ	2			1												1						
小児科定点年齢	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	38	8	14	13	3																	
咽頭結膜熱	35		6	6	2	4	8	3	2	1		1			2							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61			1	4	7	10	8	10	9	3	2	7									
感染性胃腸炎	1197	8	65	181	124	95	106	105	80	58	63	47	135	27	103							
水痘	84		4	22	20	12	20	2	1	1		1	1									
手足口病	33		5	14	10	2			1						1							
伝染性紅斑	0																					
突発性発しん	36	1	15	17	2			1														
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	7		2	1	1	1	1					1										
流行性耳下腺炎	11				2	4	1	1		2				1								
眼科定点年齢区分	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	13				1										2	3	2	2	1	2		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	1			1																		
マイコプラズマ肺炎	6		2	2					1								1					

**大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域**

☀️ **感染性胃腸炎: 熊本、山鹿、菊池、八代  
人吉、有明、宇城**

☀️ **水痘 : 八代**

**感染性胃腸炎の警報レベル地域が拡大中です!!**

今週の報告数は1197件となり警報レベルにある地域は7地域(熊本、山鹿、菊池、八代、人吉、有明、宇城)に広がっています。警報レベルに達していない地域でも報告数は増加傾向にありますので、今後警戒が必要です。症状は、発熱、下痢、吐き気、嘔吐、腹痛などがあります。子供の場合、元気がなかつたり、不機嫌な状態が続く時はすぐに主治医の診察を受けて下さい。家庭では脱水を起こさないよう、水分補給に努めましょう。この時季、老人ホームなどの施設でノロウイルスによる感染性胃腸炎の発生が見られます。ノロウイルスは感染力が極めて強いので、医療機関や福祉施設、学校など集団生活の場では下記を参考に、しっかりと予防に努めてください。

【ノロウイルスを予防する4つのポイント】

- ①生ものは極力避け、85℃で1分以上加熱調理しましょう。
- ②調理の前後、トイレやおむつ交換の後などは、必ずせっけんで手を洗きましょう。
- ③調理器具の使用後は、ときどき次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)に浸して殺菌しましょう。
- ④嘔吐物や便を処理するときは、マスクと手袋を着用し、周りを汚染させないようにしましょう。